私たちのスローガン

格致日新

Improve Quality

飛翔

第34号　令和2年3月31日

編　集　茨城県商工会青年部連合会
発　刊　茨城県商工会連合会
水戸市桜川2-2-35
責任者　大森 健一　青年部員数 2,017人
(R1.9.30)

12月4・5日

商工会青年部全国大会 愛知大会

茨城県内208名参加!

令和元年12月4日・5日の二日間にわたり、名古屋国際会議場にて商工会青年部全国大会（愛知大会）が開催され、茨城県内からは208名が参加した。

大会はオープニングセレモニーとして地元、足助西町お囃子会によるパフォーマンスで幕を開け、冒頭の式典では開催地愛知県青連加藤会長、全青連奥村会長の主催者挨拶、中小企業長官前田氏（代読）、大村愛知県知事等ご来賓方より開催を祝うご挨拶があった。

次に全国顕彰と青年部部員増強運動の表彰式が行われた。

茨城県からは全国顕彰の「まちづくり」部門において牛久市商工会青年部が、感謝状部門でつくば市の植松崇氏が表彰を受け、部員増強運動においては部員数増加実績連合会部門において見事全国第2位（65名）の実績をおさめ表彰を受けた。

主張発表大会では全国各ブロックを勝ち抜いた青年部員たちが商工会青年部の意義などについて発表した。

結果は優秀賞には宮城県丸森町商工会阿部秀一氏、最優秀賞には福岡県八女市商工会堤裕一郎氏が選ばれた。

基調講演では野球評論家の落合博満氏が登場。監督時代に中日ドラゴンズを日本一に導いた経験を踏まえて自身の野球理論を語り、マネジメントという視点で会社経営をおこなう参加者たちに気づきをあたえた。

最後に次年度の全国大会開催地である熊本県青連により開催PRが行われた。

その後、同会場にて交流会が催され、愛知県ゆかりのアーティスト等によるステージイベンや地元料理が振る舞われるなか、全国の垣根を超えた部員間交流が行われ一日目の日程を終了した。

二日目は希望者が全国より集まった青年部員等に自社製品をPRする商人ネットワークから始まり、全国青年部長会議においては全青連執行部による全青連事業についての報告等が行われた。大会最後には閉会セレモニーとして大会旗の引継ぎが行われた後、47都道府県青連会長によるフィナーレが行われ、大会は盛況のうちに幕を閉じた。

12月7日

第9回 ジュニアサッカー大会開催!!

県商工会青年部連合会（大森健一会長）は、昨年12月7日、鹿嶋市の「高松緑地公園　多目的球技場」において、第9回ジュニアサッカー大会（インパルスカップ2019）を開催した。

この事業は県商工会青年部が地域貢献を目的に、将来を担う県内の子供たちにスポーツを通じた交流の場を提供する事業であり、その結果、子供たちの郷土愛の育成、地域の連帯意識の高揚の一助となっている。

大会には県内6ブロックより各2チーム、計12チームが参加した。

例年、鹿島アントラーズのホームグラウンドである「カシマサッカースタジアム」で行われてきた本事業であるが、今年度はいきいき茨城ゆめ国体2019開催の関係で会場を変更し行った。当日はサプライズゲストとして、アントラーズOBで、現在東京都社会人リーグ1部南葛SCでプレーをする青木剛選手をお招きし、大会を盛り上げていただいた。

終日雨模様の悪天候であったが、選手たちは全力プレーで白熱した試合を繰り広げた。

結果は、次の通り。

優　勝：アイデンティみらいU-12（つくばみらい市）
準優勝：エスペランサ総和FC（古河市）
第3位：神栖SSS（神栖市）
最優秀選手賞：根本　龍（アイデンティみらいU-12）
得点王：谷本　琉樹（アイデンティみらいU-12）

優勝したアイデンティみらいU－12（つくばみらい市）と青木剛選手

2月14日

令和元年度商工会青年部 後期部員研修会開催

県商工会青年部連合会は2月14日、つくば市内のホテルにて、令和元年度商工会青年部後期部員研修会を開催し、青年部員100人が参加した。

研修会の前には県内商工会青年部事業報告会と青年部担当者会議がそれぞれ開かれた。

事業報告会では、県青連の各委員会報告と各ブロックによる事業報告が行われた。

一方、担当者会議では、各商工会青年部の担当者が一堂に会し、大森会長を交え、日々の青年部活動について各担当者から様々な意見が飛び出した。

講演する梶谷通稔氏

メインである研修会では、「始まったAI激変時代と地頭力」と題し、元 米IBMビジネスエグゼクティブの梶谷通稔氏が講演した。

梶谷氏は人工知能について一通り説明したうえで、「AIにも弱みがあり、その弱みは今のところ人間にしかできないことである。人間はAIに職を奪われるのではなく、職を肩代わりしてもらうもの。これからの時代は、未体験の問題に対し試行錯誤していくことが必須であり、そのうえで地頭力が鍛えられていく」と説いた。そして、先人第一人者たちの考え方やキーワードから、地頭力を鍛えるヒントを導いた。

部員たちは熱心に聞き入り、とても実りのある研修会となった。

11月15日

茨城県青連全体懇親会の開催

県商工会青年部連合会は県内部員の懇親を深めるため、県内商工会青年部員を対象に全体懇親会を企画し、11月15日ホテルグランド東雲（つくば市）にて実施した。参加者は100余人であり、ステージ上では各ブロックの代表者による報告等が行われ、参加者はブロックや商工会の地域の垣根を超え、懇親を深めた。終盤には台風19号で甚大な被害にあわれた大子町の青年部員から支援活動に関するお礼の言葉が述べられ、県商工会青年部連合会は43商工会で一つであると再認識される一幕となった。

大森会長の挨拶

2月8日

商工会議所青年部事業 『レクチャー茨城』へ参加

令和2年2月8日、茨城県商工会議所青年部連合会主催の「レクチャー茨城」が古河市にて開催され、当会からは20余人が参加した。日程は4部構成となっており、第1部の基調講演では『「新しい茨城」への挑戦』と題し大井川和彦県知事による講演が行われた。内容は大井川県知事が就任してから行ってきた県政の紹介や今後、新しい茨城となっていくための未来への展望、それを実現させるために行っている具体的な取組にてついての講演であり、会社経営を行っていくためにも共通するものがあり参加者は熱心に聞き入っていた。第2部は有識者によるパネルディスカッションであり、パネラーには自治体魅力度調査を行っている企業、（株）ブランド総合研究所の社長の田中氏も含まれており、例年の魅力度ランキング下位県の茨城県民として魅力度を向上させるための活動について考える良い機会となった。第3部では参加者同士のグループディスカッション、第4部は懇親会となっており、同じ地域の若手経営者団体として意見を交わし、懇親を深めた。

台風災害における商工会青年部の支援活動

昨年10月に発生した「令和元年東日本台風」は、関東・甲信地方や東北地方等日本各地に甚大な被害をもたらした。

茨城県内においても、記録的な大雨等により久慈川や那珂川などの河川が氾濫。県北地域を中心にその隣接地域も含め、死亡者2名等の人的被害のほか、建物被害が全壊292棟、半壊2397棟、建物一部損壊1821棟など多くの県民が被災する事態となった。

汚水の染み込んだ、重たいゴミを分別する部員たち

こうした被災状況に際し、茨城県商工会青年部連合会では、過去の関東・東北豪雨災害時等の経験を踏まえ、台風上陸前から各商工会青年部長を通し県内青年部員に注意喚起及び災害時の備え等について情報を発信。

台風上陸の翌日からは、県内の被災状況確認に努め、人道的支援の要請があった大子町において、当青年部連合会で組織的に、現地支援を行うことを決定した。

そして、支援活動のため現場に入った私たちの目に飛びこんできた光景は、凄惨なものであった。久慈川の増水により水郡線の鉄橋が流失、車両や様々な瓦礫が散乱し、浸水した建物や道路は泥にまみれ、重要なライフラインである水道は寸断され、支援活動は困難を極めることとなった。

今回の支援では、被災を免れた大子町商工会を活動拠点としたが、支援物資を保管することは困難であったため、過去の経験を踏まえSNS等での発信は最小限にとどめ、グループラインにより本当に必要な物資について、県内青年部長に呼びかけた。

また、支援活動の内容としては浸水した住宅等の泥の掻き出し、家財類の搬出、指定された集積場へのゴミ運搬を実施。商工業者の強みを活かし、県内全域から集結した大勢の青年部員がトラック、重機、発電機等を持ち寄り、商工業者ならではの支援活動に積極的に取り組んだ。

商工会青年部宣言・誓いの言葉に掲げられている「われわれ商工会青年部は、社会一般の福祉の増進に努め、新しいまちづくりの原動力となる」との思いを胸に、延べ20日間余に渡り、参加協力者は約650人にのぼった。

この支援活動を終え、活動内容の改善点等もあるが、一日も早い復旧につながれば幸いであり、我々青年部の行動力と強い“絆”を再認識させられた。

今回の災害により、被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様からの力強い支援に心より感謝申し上げます。

関 哲 大子町商工会青年部長

「この度の水害に際しまして、茨城県商工会青年部連合会の皆様をはじめ駆けつけてくださった皆様には、心強いご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

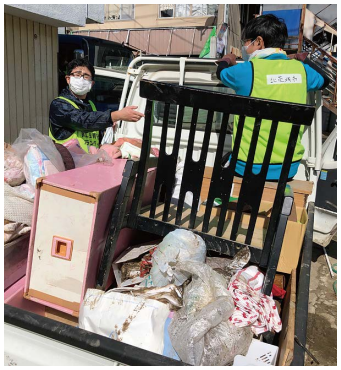
想定を超えた甚大な浸水被害でしたが、各地から集まる青年部ならではの心強い作業により元のキレイな街並みが戻ってきたとき、地域のために！という青年部のとても大きな底力を感じました。

また、災害を通じて、改めて青年部の心強い“絆”を確認し合う機会でもありました。心配をしてくれる仲間がいることに、感謝の言葉しかありません。

皆様からいただいたご支援への感謝と、日頃から気にかけてくれる仲間への感謝の気持ちを忘れず、しっかり前を向いて復興へと邁進してまいります。」

吉成 弘輝 同青年部元部長（被災支援拠点責任者）

「ラグビーW杯で日本中が盛り上がっていた10月、一夜にして令和元年台風19号の被災地へと変わってしまった大子町。現状を受け入れるのが困難な中、私たちに勇気とパワーと笑顔を届けてくれた黄色のビブスの仲間たち…。



One Team!ワンチーム!!と声を上げ仲間をまとめた大森会長はじめ茨城県青連役員の皆様、One for All All for One をポロシャツの袖に刻み自らの経験を繋いでくれた常総市商工会青年部の皆様、そして連日県内各地から何度も駆けつけてくれた大勢の青年部の皆様、多大なるご支援とご尽力に心より感謝、御礼申し上げます。

【過去、現在、未来】を共有（共友）し、今後の課題、備えとしていければと思います。

かけがえのない人たちとかけがえのない地域のために…私にとって一生忘れない言葉となり、噛み締めた日々でした。本当にありがとうございました。」

全国大会顕彰受賞

まち（地域）づくり部門「牛久市商工会青年部」

ビアガーデン開催による新住民との融合

牛久駅の常磐線乗降者数はビアガーデン事業開始時では県内4位を誇っていたが、周辺地域と同様ベッドタウンとしての利用者が多く、乗降客は都内で呑み牛久では帰って眠るだけの市民が多く、駅周辺の活気も衰退していた。

そのような事態を受け「もう一度駅前の活性化をしたい」「参加者みんなが楽しめる事業にしよう」と駅前活性化事業としてビアガーデン〝ほろ酔い横丁〟が誕生しました。

事業の回数を重ねるごとに事業内容の改善をしていき、牛久近郊のお客様が周辺店舗に訪れるきっかけになればと店舗と協力してクーポン券を発行したり、ファミリー層の来場者も多いため、子供向けのイベントを取り入れるなどし、幅広い世代から支持される事業となった。創世記には予算組の問題等もあったが、青年部が出店する出店の売り上げを運営費に充てることで着実に事業実施が出来るようになり、地域住民の交流の場となっている。

賑わうほろ酔い横丁

ピザとワインによる街のブランド価値向上

牛久には日本最古のワイン醸造所「牛久シャトー」があり、ワインに合う食材「チーズ」に焦点を当て、ピザでの町おこし事業を開始した。「牛久市商工会青年部オリジナルピザ」として、厚みがあり、チーズや具材がたっぷり入ったアメリカ生まれの通称ピザの横綱「シカゴピザ」を、牛久市出身の横綱の名前をもじり「ピザの里」と命名し、市内の飲食店のメニュー化を推進し行政からの助成を受ける事でピザに関する多くのイベント開催するまでに至る。その成果により、市民に「ピザとワインの街うしく」という認識が浸透しつつあるが、さらに認知度を高めるため茨城県主催の「商店会活性化コンペ事業」にエントリーし、プレゼン大会の末、最優秀賞を獲得、この予算により青年部オリジナルピザ取扱店のHP開設や、駅ビルの空きテナントを活用し1週間限定のワインバー「大人の牛久バー」を開催し、メディアにも取上げられ大きな反響を呼んだ。

最後に牛久市商工会青年部は、年間を通じ事業が多い為、必然的に部員や事務局の負担も大きく、年を重ねるごとにさらに増加傾向にある。その状況の中、不満を漏らさず、真剣にお互いが議論し、時には衝突もあり「地域の為、仲間の為」と事業に協力してくれる部員こそが、牛久市の宝である。

創立50周年という長い年月の中で培われてきた青年部の「伝統、文化」を引継ぎ、牛久市を「愛する心」を先輩方から若い世代へ伝えていく事が、私達の使命であり、牛久市の賑わいの源泉となるであろう。

その私達の想いが、行政や企業、市民に伝播し協力する事で、牛久市の明るい未来を地域と共に今後も目指していく。

牛久市商工会青年部員の皆さん

県商工会青年部連合会は県内商工会の青年部員相互の親睦事業として、11月12日、常陸大宮市の静ヒルズカントリークラブにおいて、県北ブロック（佐藤高雅）の運営により第36回県青連ゴルフ大会を開催した。各ブロックより選出された代表選手の他、本年度は各商工会青年部長がオブザーブ参加し合わせて77名の参加がありゴルフを通じて大いに親睦を深めた。大会結果については左記のとおり

受賞者と大森会長

大　会　結　果

【団体戦】（グロス競技）	優　勝	県南ブロック
	準優勝	県西ブロック
	第３位	県北ブロック
【個人戦】（グロス競技）	優　勝	岡田　健司 君（県南・龍ケ崎市）
	準優勝	山中　将次 君（中央・水戸市内原）
	第３位	飯塚　康照 君（県西・下妻市）
	第４位	森山　　実 君（鹿行・潮来市）
	第５位	木内登喜雄 君（鹿行・神栖市）

第25代・広報委員がスタートしまして間も無く1年が経とうとしています。

当委員会では、これまで青年部FBの周知と活用に重きを置き、情報・活動共有のためのシェアや投稿に力を入れてきました。部員の皆様には、引き続き県青連はじめ各単会のFB活用に努めていただけるようお願いいたします。

また昨年10月の台風19号による被害につきましても、FBを活用した被災地状況の把握や支援状況確認など、強力なツールとして運用できたのではないかと思っています。

今後もFBなどのSNS、ホームページを利用した活発な情報発信の充実を目指して、当委員会としてはFBの活用法を構築していきたいと考えています。

次年度もますますの広報・情報発信に努めて参りますので、引き続きご協力をお願いいたします。

広報・情報ネット戦略委員会

役　職	氏　名	青年部名
委員長	山形　和義	北茨城市
副委員長	鈴木　篤	土浦市新治
	齊藤　智	筑西市
委　員	谷津　茂	水戸市内原
	鈴木　正人	行方市
	櫻井　惇	龍ケ崎市